

# 民

# 俗

明治・大正・昭和の時代の人々の生活を垣間見ることができる民俗コーナーでは、土地を愛し、生活を育んできた民の心が宿っている収蔵品を展示しています。



昭和初年頃の農家の居間（復元）

圖が裏のまわりは炊事、食事、一家の団らん、米客の接待など日常生活の中心となっていました。

# 歴

# 史

江戸時代からの古文書資料を中心とした歴史コーナーでは、ひととかれた文献から、村の歴史が雄弁に語られます。



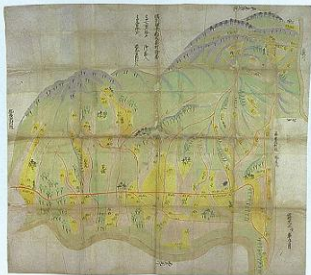
横前人形（民俗芸能）



雲板（実勝寺蔵）  
嘉慶2年（1388）  
作の県内最古のもの。いろいろな合図に叫いたという。（県宝）



国語読本（大正時代）



村絵図 寛文2年（1662年）  
大草村御料・私領を示したもの

# 考

# 古

遺跡から発掘された数々の出土品が収蔵されている考古展示室。有史以前の8000年も昔の世界に戻り、当時の人々の生活の様子がうかがい知ることができます。



考古展示室（2階）

縄文 深鉢形土器



縄文時代後期初期の  
称名寺式土器  
（北の原遺跡出土）

弥生 深鉢形土器



弥生時代前期末を代表する水神式土器  
（菟谷原遺跡出土）



金銅製柄頭  
推定1,500～2,000年前のもの  
（六万部古墳出土）



常滑焼  
室町時代の常滑焼  
豪族が理めたものであろう  
（鹿賞出土）